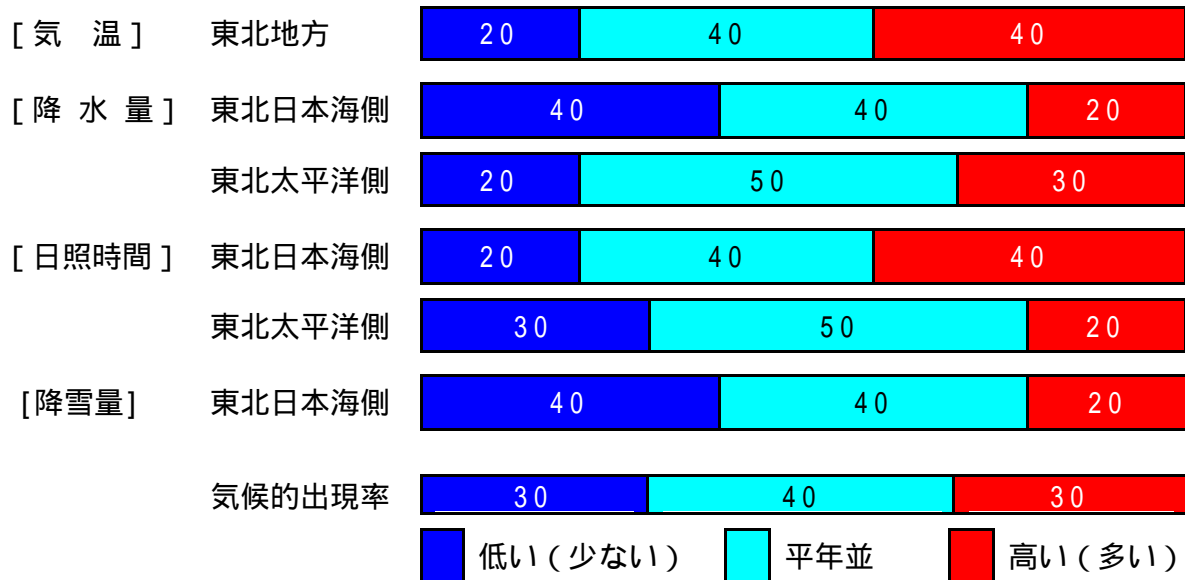


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：1 月 22 日～2 月 21 日）

平成 12 年 1 月 21 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「低い」の確率は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、前半は冬型の気圧配置の日が続くでしょう。これまでの極端な高温は一段落し、気温は平年並に戻る見込みです。東北日本海側は平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。後半は、冬型の気圧配置が長続きせず、天気は周期的に変化する見込みです。

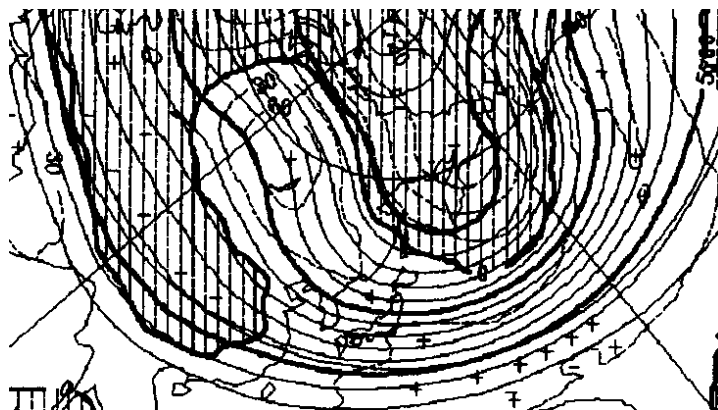
この期間の平均気温は平年並か高い見込みです。また、東北日本海側の降雪量は平年並か少ない見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 9 日、東北太平洋側で約 22 日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1 週目…………… 向こう一週間は、23～24 日にかけて気圧の谷が通り、その後は冬型の気圧配置となる見込みです。東北日本海側では雪の日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れるでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 2 週目…………… 冬型の気圧配置となりますが、低気圧の通過で東北太平洋側でも天気の崩れる日があるでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 3～4 週目…………… 冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変化するでしょう。
(2 月 5 日～2 月 18 日) 平年に比べ、東北日本海側は雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 10 日です。

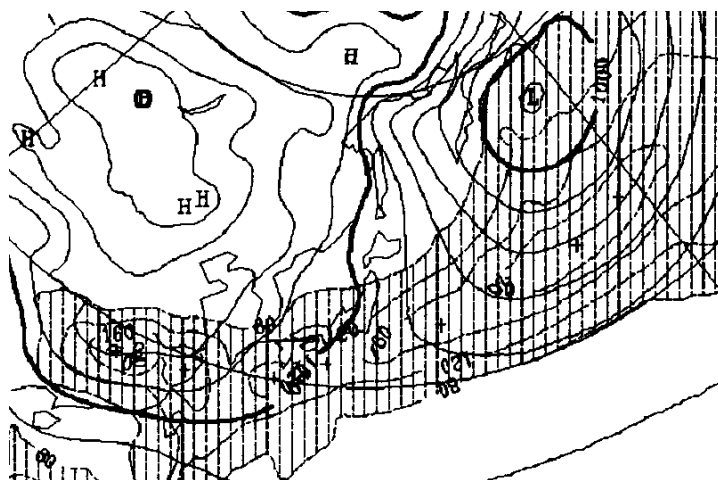
予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は弱い正偏差となっている。バイカル湖の西の東経 90 度付近は気圧の尾根となっている。これまでは日本の東海上の高度が平年より高く、バイカル湖付近の高度が平年より低かったため、寒気が南下しにくい状態だったが、その傾向は解消しつつあり、これまでよりは寒気が南下しやすい見込み。この傾向は 2 週目までははっきりしているが、3～4 週目は弱まる。



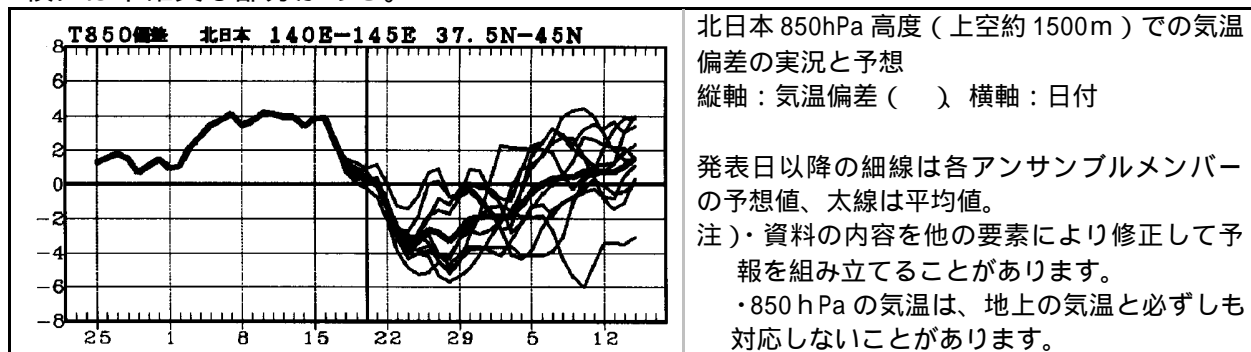
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、西高東低の気圧配置を示すが、等圧線の間隔は日本付近で広く、冬型は弱い。降水量は日本列島を東西に帯状に覆い、太平洋側で明瞭である。週別（図略）では、1～2 週目はやや冬型が強まる傾向を示すが、3～4 週目には再び冬型は弱まる見込み。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目が低極で、2 週目以降上昇し、3~4 週目には再び正偏差となる予想。ただし、ばらつきが大きく寒気の規模には不確実な部分がある。

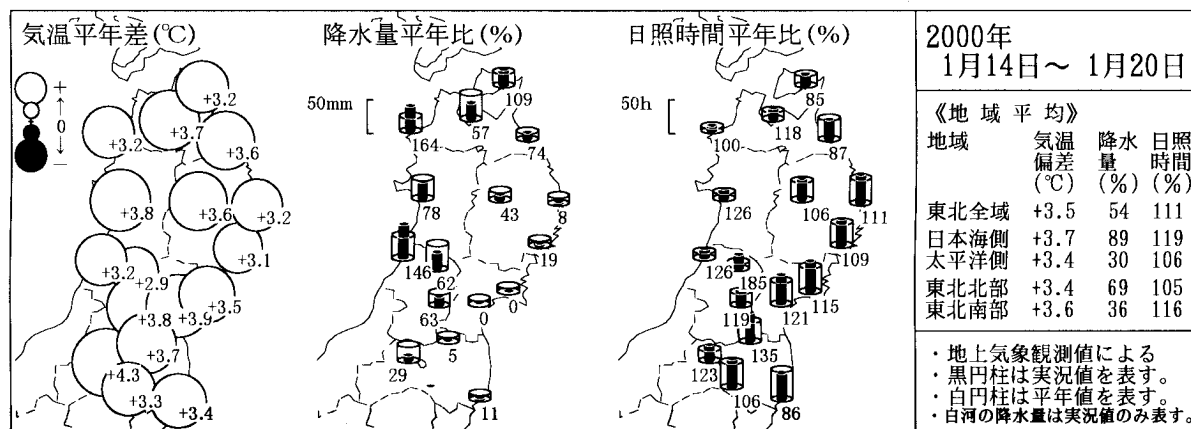


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間（1 月 14 日～1 月 20 日）の天候の経過

この期間、弱い冬型の気圧配置となる日が多く、気温の高い日が続いた。天気は、東北日本海側では曇りや雨の日が多かったが、19 日は日本海を低気圧が進み冬型の気圧配置が崩れたため、晴れたところが多かった。東北太平洋側では概ね晴れた。

平均気温は、東北地方で平年差+3.5 。降水量は、東北日本海側で平年比 89%、東北太平洋側では平年比 30%。日照時間は、東北地方で 111%。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）